

# 2017年度 大学院言語文化研究科附属言語文化研究所事業一覧

## I. 研究部事業

### ①研究員による基礎研究

1. 鷺麗美知 ゾラナ (文学部准教授)

「Learning L2 vocabulary from context : Myths and reality」

2. 竹林 紀雄 (情報学部准教授)

「創成期におけるテレビコンテンツについての研究」

### ②研究員による共同研究

研究題目「グローバルに生きる：Living Globally」

代表者 日沖 敦子 (文学部専任講師)

分担者 蔣 垂東 (文学部教授)

グラハム 児夢 (文学部准教授)

加納 陸人 (文学部教授)

三枝 優子 (文学部准教授)

鈴木 健司 (文学部教授)

鈴木 誠 (経営学部准教授)

竹林 紀雄 (情報学部准教授)

長谷川 清 (文学部教授)

山川 智子 (文学部准教授)

ラメイ・アレック (文学部専任講師)

鷺麗美知 ゾラナ (文学部准教授)

渡辺 敦子 (文学部准教授)

大瀧 幸子 (本学非常勤講師)

磯部 美里 (愛知大学非常勤講師)  
クレッグ・ジョンストン (法政大学非常勤講師)  
于 日平 (中国・北京外国語大学教授)  
金 華 (中国・中国華南理工大学准教授)  
サベル・モガッドム (イラン・元テヘラン大学)  
徐 滔 (中国・北京外国語大学准教授)  
孫 潔 (中国・雲南民族大学講師)  
宋 洙珍 (韓国・仁荷大学兼任講師)  
斉 海娟 (中国・東北大学校講師)  
高宮 優実 (米・アラバマ大学准教授)  
劉 琳琳 (中国・北京大学准教授)  
張 晶 (杏林大学博士課程)  
金 瑋婷 (中国・北京外国語大学博士課程)  
馮 曉慶 (中国・北京外国語大学博士課程)  
盧 曉晴 (中国・北京外国語大学博士課程)

### ③研究例会

第1回 2017年12月20日 (水)

発表題目 中国語の結果複合動詞の意味と構造に関する一考察  
—日本語の複合動詞との対照の視点から

発表者 盧 曉晴 (準研究員)

発表題目 中国大陸における偽満州国に関する研究について  
—2000年—2016年

発表者 馮 曉慶 (準研究員)

④紀要発行

2018年3月16日発行『言語と文化』30号（創立30周年 記念号）

⑤2016年度研究員による基礎研究の報告

研究題目 「Cross-linguistic dual coding of input and L2 idiom acquisition」

研究者 鷲麗美知 ゴラナ（文学部准教授）

⑥2016年度研究員による共同研究の報告

研究題目 「グローバルに生きる：Living Globally」

代表者 リチャード A. ローガン（文学部教授）

分担者 グラハム 児夢（文学部准教授）

蔣 垂東（文学部教授）

糸井 江美（文学部教授）

鈴木 誠（経営学部准教授）

武田 和恵（文学部教授）

長谷川 清（文学部教授）

福田 倫子（文学部准教授）

山川 智子（文学部准教授）

ラメイ・アレック（文学部専任講師）

稲垣 泰一（文学部元教授）

于 日平（北京外国語大学教授）

大瀧 幸子（本学非常勤講師）

クレッグ・ジョンストン（法政大学非常勤講師）

佐藤 一樹（二松学舎大学教授）

徐 滔（北京外国語大学准教授）

宋 洙珍（韓国・仁荷大学校兼任講師）  
孫 潔（中国・雲南民族大学講師）  
平川 眞規子（中央大学教授）  
王 唯斯（準研究員/北京大学大学院）  
金 瑋婷（準研究員/北京外国語大学博士課程）

平成28年度の共同研究は、「グローバルに生きる：Living Globally」というテーマをもとに、各分野から研究された。それぞれの研究成果は、研究会や紀要『言語と文化』29号にて発表された。

#### 【紀要】

- 1) 鷺麗美知 ゴラナ：「Bilingual dual coding and L2 idiom acquisition」
- 2) 陳 澤佳：「完全否定を表す副詞に関する特徴分析  
—量・程度の観点からのアプローチ—」
- 3) 平川 眞規子：「中国語の関係節の理解と産出  
—日本在住の継承中国語話者を対象とした探索的研究—」
- 4) 糸井 江美：「文教大学文学部外国語学科で取り組む課題解決型  
学習（PBL）とグローバル人材育成」
- 5) ラメイ・アレック：「外国人住民の社会参加と日本の多文化共生：  
外国語学科における邦楽と民謡イベントからの一考察」
- 6) クレッグ・ジョンストン：「Living Globally：A discussion of the  
trend of Globalization: what it is, how it's affecting us, and  
how we can succeed in the era of globalization」

#### 【研究例会】

- 1) 盧 暁晴：「中国語の結果複合動詞の意味と構造に関する一考察  
—日本語の複合動詞との対照の視点から—」

- 2) 馮 曉慶：「中国大陸における偽滿州国に関する研究について  
——2000年—2016年」

⑦文教大学文学部開設30周年記念

日中韓三国 日本語文化に関する国際学術シンポジウム

2017年10月14日（土）

主催：文教大学文学部

共催：北京外国語大学

韓国日本語文化学会

文教大学大学院言語文化研究科

文教大学大学院言語文化研究科附属言語文化研究所

主 催 者 宮武 利江（文教大学文学部長）

基調講演 近藤 研至（文教大学学長）

「教育学部教員であることから、

いわゆる「形容動詞」について考えたこと」

特別招待発表

<言語領域>

矢澤 真人（筑波大学）「個別対応型国語辞典をめざして

—一次世代の日本語辞書のグラウンドデザインと基礎調査—」

橋本 修（筑波大学）「『ときがある』とその周辺」

<文学&多文化領域>

鈴木 健司（文教大学）「『オツベルと象』に見られる社会構造の分析

—1926（大正15）年という結節点—」

白井 啓介（文教大学）「麗人は巴里か上海か

—『A Woman of Paris』と『上海一婦人』—」

<言語教育&社会・文化領域>

牟 世鍾（韓国・仁荷大学校）「モダリティ形式の韓国語訳について — 『わけだ』 を中心に一」

邵 建国（中国・北京外国語大学）「日露戦後の満州経営と政友会」

研究発表（アルファベット順）

安部 朋世（Abe Tomoyo）千葉大学

阿川 修三（Agawa Shuzo）文教大学

阿 栄（Arun）文教大学大学院修士課程

アスイエ・サベル・モガッダム（Asieh Saber Moghaddam）

在イラン大使館附属日本人学校/元テヘラン大学/文教大学大学院附属言語文化研究所客員研究員

趙 智英（Cho Jiyoung）甲南大学

趙 柱喜（Cho Joohee）韓国・瑞逸大学校

崔 順育（Choi Soonyook）韓国・ソウル神学大学校

崔 泰和（Choi Taewha）韓国・慶熙大学校

鄭 基龍（Chung Kiryong）韓国・全南大学校

戴 秋娟（Dai Qiujuan）北京外国語大学

馮 曉慶（Feng Xiaoqing）北京外国語大学博士課程/文教大学大学院附属言語文化研究所準研究員

韓 基連（Han Kiryoun）韓国・江陵原州大学校

長谷川 清（Hasegawa Kiyoshi）文教大学

井口 有子（Inokuchi Yuko）韓国・仁荷大学校

グラハム児夢（James Frederick Graham）文教大学

鄭 相哲（Jeong Sangcheol）韓国・極東大学校

蔣 垂東（Jiang Chuidong）文教大学

姜 瑛 (Jiang Ying) 北京郵電大学/元文教大学大学院付属  
言語文化研究所準研究員

柯 愛霞 (Ke Aixia) 文教大学大学院博士後期課程

檢校 裕朗 (Kenko Hiroaki) 韓国・極東大学校

金 義泳 (Kim Euiyoung) 韓国・徳成女子大学校

金 漢植 (Kim Hansik) 韓国外国語大学校

金 鎮雄 (Kim Jinung) 韓国・延世大学校

金 弼東 (Kim Pildong) 韓国・世明大学校

金 英 (Kim Young) 韓国・大邱韓医大学校

權 景愛 (Kwon Kyoungae) 韓国外国語大学校

李 炫瑛 (Lee Hyunyoung) 韓国・建国大学校

林 淑丹 (Lin Shutan) 台湾・文藻外語大学

劉 琳琳 (Liu Linlin) 北京大学/文教大学大学院付属言語文化  
研究所客員研究員

劉 肖雲 (Liu Xiaoyun) 南開大学

盧 曉晴 (Lu Xiaoqing) 北京外国語大学博士課程/文教大学大  
学院付属言語文化研究所準研究員

馬 小兵 (Ma Xiaobing) 北京大学

峯崎 知子 (Minezaki Tomoko) 韓国・弘益大学校

文 彰鶴 (Moon Changhak) 韓国外国語大学校

森 香奈 (Mori Kana) 韓国・元仁川大学校

落合 哉人 (Ochiai Kanato) 筑波大学大学院博士課程

朴 敏瑛 (Park Minyoung) 韓国外国語大学校

片 龍雨 (Pyun Yongwoo) 韓国・高麗大学校

林 始恩 (Rim Sieun) 韓国外国語大学校

坂口 清香 (Sakaguchi Sayaka) 韓国外国語大学校

宋 洙珍 (Song Sujin) 韓国・仁荷大学校/文教大学大学院付属

言語文化研究所客員研究員

高草木 美奈 (Takakusaki Mina) 韓国・大真大学校

筒井 昭博 (Tsutsui Akihiro) 韓国・梨花女子大学校

熊 文莉 (Xiong Wenli) 北京外国語大学

山川 智子 (Yamakawa Tomoko) 文教大学

尹 松 (Yin Song) 華東師範大学

于 日平 (Yu Riping) 北京外国語大学/文教大学大学院付属言

語文化研究所客員研究員

尹 榮珉 (Yun Youngmin) 韓国・延世大学校

張 晶 (Zhang Jing) 杏林大学大学院博士課程/文教大学大

学院付属言語文化研究所準研究員

鄭 琳 (Zheng Lin) 南開大学

座長、司会 (アルファベット順)

舟部 淑子 (Funabe Yoshiko) 文教大学

石山 哲也 (Ishiyama Tetsuya) 東京福祉大学

韓 光洙 (Han Kwangsu) 韓国・清州大学校

鄭 惠卿 (Jeong Hyekyeong) 韓国・世宗大学校

紙 宏行 (Kami Hiroyuki) 文教大学

加納 陸人 (Kano Michihito) 文教大学

金 賢廷 (Kim Hyeongjeoung) 韓国・白石大学校

宮武 利江 (Miyatake Toshie) 文教大学

寺澤 浩樹 (Terasawa Hiroki) 文教大学

山田 忠司 (Yamada Tadashi) 文教大学

熊 林紅 (Xiong Linhong) 北京師範大学珠海分校

周 文匯 (Zhou Wenhui) 北京師範大学珠海分校

研究部より

日沖 敦子

今年度より研究部を担当させて頂くことになりました。大学院付属の研究部として、先生方や院生のために少しでもお役に立つよう努めて参りました。蔣垂東所長、松崎智美氏（言語文化研究所）らのお力添えあって、当初の計画通り、研究活動を無事に終えることができ、感謝しております。

昨年度に引き続き、今年度も共同研究のテーマ「グローバルに生きる」を基に、各分野（日本文学、日本語教育、英語教育、中国語学、社会学など）から研究が進められました。多文化時代に相応しく、多角的な視点でそれぞれの研究が遂行され、今年度の紀要にも興味深い研究論

文が数多く寄せられました。

研究部は、毎年研究定例会を開催しています。詳細は、前述の活動報告にある通りです。今年度は、本学準研究員である盧暁晴氏、馮曉慶氏にご発表いただき、充実した研究定例会となりました。ありがとうございました。

本年は、文教大学文学部開設30周年の年にあたります。10月14日に30周年記念「日中韓三国 日本言語文化に関する国際学術シンポジウム」が本学で開催され、盛会かつ大変充実した研究集会となりました。

このような充実した研究活動を遂行できるのも、共同研究および基礎研究にご参加くださった先生方、御論文をお寄せくださった先生方、そして、国際学術シンポジウムや研究定例会にご参加下さった皆さまのご協力あつてのことです。改めて感謝申し上げます。

今後も言語文化研究所へのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

## II. 研修部事業

### ①夏期公開講座報告

#### (1) 英語教育夏期講座

—英語教育の新しい視点—

対象：中学校・高等学校英語科教員または教員志望者。

埼玉県内在住または勤務する方。

目的：英語教育についての理解を深める。

期日：平成29年7月28日（金）

会場：文教大学越谷校舎3号館（3401R）

参加者：27名

#### 講義・発表内容

講義①「リフレクション（振り返り）による指導力強化とは？」

渡辺 敦子（文教大学）

中・高等学校の教員養成・教員研修のコア・カリキュラムの中でも触れられていますが、ここ数年、教員の指導力強化のためにリフレクション（振り返り）の重要性が唱えられています。しかし「リフレクション」とは何でしょうか。自分の授業を思い返し、考えればよいのでしょうか。それはすべての教員がすでに従事してきたことなのではないでしょうか。本講義ではワークショップを通して「リフレクション」を体験し、何を振り返り、どうすればよいのか考えます。

講義②「教科書の可能性を広げよう：クリティカルシンキングと世界市民としての意識を育むtask-based学習法」

Jennie Roloff Rothman（神田外語大学）

世界市民としての意識を育成したい、クリティカルに物事を考えることができるように教えたいと思っても、授業では教科書を終える必要があるため、なかなか思うようにはいきません。この講義では教科書の課題をプロジェクトとして生徒に取り組んでもらう方法を紹介します。創造性を持って、準備時間をかけずに教科書の内容を広げ、考え深く見識のある地球市民を育むことが可能になります。（講義の使用言語は英語になります。）

講義③「ESPを通して英語教育を考える」

寺内 一（高千穂大学）

人は様々なコミュニティを形成し社会生活を送っています。このコミュニティの中では、効率よくやり取りするために、特

定の目的、内容、形式を持つコミュニケーションを取り交わしており、これをESPといいます。日常的なものとしては、天気予報、料理のレシピ、昔話、専門的なものとしては、ビジネスレター、IR情報、学術論文等があります。本講座ではこのESPを通して英語教育そのものを改めて考え直してみる機会にします。

## 英語教育夏期講座

### (2) 日本語教育夏期講座

—日本語教育における日本文化の重要性—

対象：日本語教育に携わっている方、または日本語教育に関心のある方。

埼玉県内在住または勤務する方。

目的：日本語教育についての理解を深める。

期日：平成29年7月28日（金）

会場：文教大学越谷校舎3号館（3301R）

参加者：25名

### 講義・発表内容

講義①「イランにおける日本語教育

—宮沢賢治作品のペルシャ語訳の試みと関連させて—」

サベル・モガッドム（イラン・元テヘラン大学）

私は現在、文学部の鈴木健司教授の共同研究者として、宮沢

賢治作品のペルシャ語訳の作業を行っています。10月初旬まで滞在の予定です。テヘラン大学日本語学科で10年以上日本語教育に携わっていた関係で、今回、この講座の講師を引き受けさせていただくことになりました。イランにおける日本語教育を、自分の体験をもとに分かりやすく説明しますので、これを機会にイランに興味を持っていただけたら幸いです。

## 講義②「日本語の慣用表現と日本文化教育の接ぎ木」

文 明載（韓国・韓国外国語大学校）

日本語の慣用表現の中には日本の歴史、社会、思想、文化、国民情緒などを下敷きにして成立したものが多い。一つの慣用表現が生まれるまでの事情を調べてみると、文法的な要素のほかにも、その裏には色々な時代状況が反映されていることが確認される。従って、言葉の一つ一つの意味を連結してはその表そうとする意図が通じないこともあり、外国語としての日本語を教える時、難しさを感じざるを得ない。その場合は慣用表現の背景となる文化的要素を理解した上で説明しなければならない。即ち、日本語の慣用表現を正しく教えるためにも文化的な背景を知っておく必要があり、裏返して言えば日本語の慣用表現を用いて文化教育の手がかりとすることもできるのである。このような観点に立ち、本講座では日本語の慣用表現と日本文化教育との接ぎ木を探る手がかりとして、「有難うございます」「将棋をさす」「家をつぐ」という三つの表現を取り上げ、これらの表現の成立過程とその文化的背景、日本人の情緒などについて考えてみることにする。

### 講義③「変容しつつある中国珠江デルタの日本語教育」

周 文匯（中国・北京師範大学珠海分校）

南中国の日本語教育は、1990年代から、日系企業の進出に伴い、東北地域の人材が南下、日本語学校が林立、更に多くの大学で日本語科が増員或いは増設されるように至り、2000年代に珠江デルタでの最盛期を迎えていたのですが、近年、留学、就労、それに、アニメブームなどの新たな要素によって、異色の展開を見せています。それらの現象と日系企業内の言語教育についてもあわせてお話いたします。

## 日本語教育夏期講座

### （3）中国語教育夏期講座

—初級中国語の新しい学習法と教育法—

対象：中国語教育に携わっている方、又は中国語学習者。

埼玉県内在住または勤務する方。

目的：中国語教育・学習についての理解を深める。

期日：平成29年7月28日（金）

会場：文教大学越谷校舎 5号館（521R） / 3号館（3501R）

参加者：22名

### 講義・発表内容

講義①「中国語で歌う『北国の春』」（521R）

舘野 由香理（文教大学・兼）

日本語の歌は、様々な国でその国の言語に訳され、歌われています。中でも、中国語に訳された歌は少なくありません。中国語で歌を歌う場合は、声調を気にしなくていいので、歌から中国語の発音を学ぶのは有効だと考えられます。では、中国語に訳された歌詞には、どのような特徴があるのでしょうか。本講義では、日本語の歌が中国語でどのように訳されているのか、千昌夫氏の『北国の春』《北国之春》と一緒に歌いながら考えたいと思います。

講義②「高校の中国語の授業を体験してみよう」（3501R）

星野 勝樹（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）

あまり知られていないかもしれませんが、英語以外の外国語の授業が行われている高校が、埼玉県でもいくつかあります。今回は、実際に高校で行われている中国語の授業を体験してみませんか？短い時間ですが、初歩の初歩の内容から始めて、気がついたら中国語を聞いて理解し、中国語で答え、中国語の文を話している、そんな体験をしてもらえるといいと思います。一緒に中国語の勉強をしましょう！

講義③「名詞の訳し方」（3501R）

徐 瓊（中国・北京外国語大学）

入門段階では、中国語と日本語の基本的な語順の違いが分かれば、言葉をコード変換すると、ある程度意味が分かるようになります。しかし、段々上達すると、コード変換という手段だけでは満足に理解できない言葉が多くなり、名詞だけでも辞書

で対応できないものも多く出てきます。それはなぜかという、言葉には言語環境があるからです。本講義では、名詞の訳し方を中心に、言語環境の影響、中国社会の変化を考えたいと思います。

## 中国語教育夏期講座

### (4) 書写書道教育夏期講座

対象：小中学校国語（書写）、高等学校書道担当教員。

書道愛好者。埼玉県内在住または勤務の方など。

目的：書写書道教育についての理解を深める。

作品制作を通じて、書の表現力を高める。

期日：平成29年7月28日（金）、29日（土）

会場：文教大学越谷校舎 4号館（422R・426R）

参加者：34名

### 講義・発表内容

A（書文化）コース 426R

講義① 創作（1）・創作の手順

講義② 創作（2）・漢字の書を中心に作品の構想を練る

講義③ 創作（3）・構想をもとに試書する

講義④⑤創作（4）・小品（半切以下）を仕上げる

講義⑥ 講義 ・書の鑑賞の態度

講師：吉沢 義和（元文教大学文学部教授）

書作品の創作と鑑賞について学びます。書作品制作の過程・手順を学び、漢字を素材とした創作に取り組みます。受講者によって書道経験はそれぞれでしょうが、創作のための基礎から学び、小品作品を仕上げてみましょう。また、制作した作品を通して、作品の鑑賞方法についても学びます。

**B（書文化）コース** 422R

講義① 学習指導要領概説（小中高）

講義② 実技（1）・基本的な用筆法・運筆法

講義③ 実技（2）・漢字（楷書）

講義④ 実技（3）・漢字（行書）

講義⑤ 実技（4）・平仮名・片仮名・漢字仮名交じりの書

講義⑥ 実技（5）・その他（草書・隸書・篆書・仮名など）

講師：豊口 和士（文教大学）

小・中学校国語科書写、高等学校芸術科書道の指導に必要な知識・技能について、基礎基本となる事項について学びます。技能面では、基本的な用筆法・運筆法から始め、書写および書道の学習領域全般について幅広く確認していきます。また、小中高学習指導要領のポイントを概説します。

**書写書道教育夏期講座**

(5) (特別企画) ドイツ語教育夏期講座

—ドイツの言語と文化への招待—

対象：ドイツ語教育に携わっている方、またはドイツ語に関心のある方。

埼玉県内在住または勤務する方。

目的：ドイツ語教育についての理解を深める。

期日：平成29年7月28日（金）

会場：文教大学越谷校舎3号館（3307R）

参加者：16名

**講義・発表内容**

講義①「ドイツ語、ドイツ語圏地域についての基礎理解

—多言語・多文化共生社会をめざして」

山川 智子（文教大学）

難民受け入れに積極的なドイツでは、彼らのドイツ語教育が必須の課題となっています。ドイツ語という未知なる言語を学習する難民たちのおかれた状況を知ることは、日本で多言語・多文化共生を考える私たちにとっても参考となる部分が多いはずです。本講座では、ドイツ語とドイツ語教育を社会政策の視点から考えていきます。また、英語と同じゲルマン語派の一つであるドイツ語の特徴や、ドイツ語を楽しく学ぶための工夫を分かりやすく説明します。

講義②「グリム童話と日本の昔話」

野原 章雄（文教大学名誉教授）

グリム童話は19世紀初めにヤーコプとヴィルヘルム・グリム兄弟が協力して集め再話したドイツの昔話です。当初読者層は

大人を意識したものでしたが、版を重ねるにつれて子供と家庭を対象にするように次第に変わっていきました。日本昔話はどうでしょうか。読者を特に限定しておりません。グリム童話も日本昔話も口伝えの物語です。受け止める庶民の知恵と心はどう反応したのでしょうか。比較検討してみます。

### 講義③「世界遺産と音楽でめぐるドイツの歴史」

梶谷 雄二（文教大学・兼）

ドイツ語を母国語とする国はドイツだけでなく、オーストリアとスイスがあります。これをドイツ語圏といいます。ドイツではなく、ドイツ語圏の過去と現在を世界遺産や音楽などの芸術作品で巡り、現在三つに分かれているこれらの国々がどうしてドイツ語圏とひとくくりにできるのかを探っていきます。

### ドイツ語教育夏期講座

#### ②異文化体験講演会

期日：平成30年1月24日（水）16：20～17：50

講演者：ラメイ・アレック（文学部専任講師）

演題：「Bukas-loob：フィリピン人のおもてなしと心に惚れた私」

概要：本発表は、18年前訪れたフィリピンとその人たちとの話である。2001年、22歳の私はルゾン島に転勤されたアメ

リカ人神父に会うためにフィリピンを訪問した。それ以来、マニラ市、ミンドロ島、ナガ市などに足を運ぶ、様々な体験をした。それがきっかけで、フィリピンの国民を好きになり、日本でも在日フィリピン人グループに入会した。どうしてこれほどフィリピン人が好きになったかと言うと、彼らの「Bukas-loob」（惜しまないおもてなし精神）は素晴らしいと思うからである。彼らの大歓迎の中にあるユーモア、友情とゆとりが私の人生を豊かにしてくれた。文教大学生がこの話でフィリピンへの興味を少しでも持ってくれれば嬉しく思う。

## 異文化体験講演会

### 研修部より

グラハム 兎夢

平成29年7月28日から29日の2日間、水無月なりの暑中、文教大学大学院附属言語文化研究所の夏期講座を行いました。この伝統の継続を可能にしてくださる有り難い参加者、講演者、スタッフの方々に感謝の意を表したいと思います。

今年も例年通りに書写書道講座はAコースとBコースに分けました。Aコースは書文化という内容で、元文教大学文学部教授吉沢義和先生が

鑑賞方法などを紹介しました。参加者は19名で、凡そ昨年の三分の二となりました。Bコースは本学文学部の豊口和士先生が担当し、多方面に渡り、楷書、行書、仮名、篆刻などについて実技を中心に教えました。受講者は15名で、昨年より2名少なかったですが、数が減っても出席した参加者の書道への熱意は冷めませんでした。

3号館を会場にした語学関係4部門のメニューも盛りだくさんで、合わせて90名が参加しました。

日本語教育の1講義目イラン・元テヘラン大学のサベル・モガッダム先生により、「イランにおける日本語教育 一宮沢賢治作品のペルシャ語訳の試みと関連させて」と題して講義をしていただきました。イランで10年以上教鞭を執っているモガッダム先生は知られざる日本語教育の次元にフォーカスを当てていました。2講義目は韓国外国語大学校の文明載先生による、「日本語の慣用表現と日本文化教育の継ぎ木」。タイトルどおりにことばと文化の親密な関係をハイライトし、特に「有り難うございます」「将棋をさす」「家をつぐ」という三つの表現が取り上げられていました。3講義目も隣国出身の講演者によるものでした。北京師範大学珠海分校の周文匯先生はタイトルとして「変容しつつある中国珠江デルタの日本語教育」中国に進出した日本企業で働く中国人の日本語教育に始まり、日本への留学、就労、また大衆文化的な要素に影響されるようになったという内容でした。

中国語教育講座は定員20名のところ2名多く、人気が劣らない講座です。中国語教育の最初の講演は真似の出来ない本校の館野由香理先生の指導のもとで、参加者はたいへん楽しく日本の「北国の春」という人口

に膾炙した曲の中国語訳「北国之春」を歌ってみました。そして、頭の柔らかい高校生にとって、中国語の授業はどのような授業なのか。この謎を解くため、埼玉県立伊奈学園総合高等学校の星野勝樹先生は授業雰囲気を変え、参加者にそれを肌で体験してもらいました。最後に、北京外国語大学の徐瓊先生による「名詞の訳し方」。中国の言語環境の変容にどれほど翻訳が影響しているのかという洞察力の鋭い見解を述べられました。

一方、英語教育の講演会に参加する人数は減りつつあります。一昨年の58名からは今回31名ダウン。宣伝作戦やタイミングそれぞれに課題を有しています。第一の講演者は本校の渡辺敦子先生、「リフレクション（振り返り）による指導力強化とは？」というタイトルで、ワークショップ形式でリフレクションの定義やその概念を如何に授業に取り入れるかという内容でした。2 講義目は神田外語大学のJennie Roloff Rothman先生による「教科書の可能性を広げよう：クリティカルシンキングと世界市民としての意識を育むtask-based学習法」という話でした。教科書に束縛されず、世界市民に不可欠な批判的思考力を養う演習としてどのように教科書を活用するのか、という課題に対し、さまざまな興味深いアプローチが提案されました。最後に、高千穂大学の寺内一先生が「ESPを通して英語教育を考える」という講義で、特定の目的としての英語はESP (English for Specific Purposes)、論文の英語、文科系の英語、理科系の英語、などの多面的な英語の使い道に気づいてもらう為の英語教育のあり方について紹介しました。

最後、外国語学科設置の開始年を祝い、今回ドイツ語教育夏期講座を設けました。最初の講義は「ドイツ語、ドイツ語圏地域についての基礎

理解—多言語・多文化共生社会をめざして」をタイトルに山川智子先生がドイツ語教育の展望を通して難民問題を抱えている現在の西ヨーロッパについて熱く語りました。次もまた本校の名誉教授野原章雄先生が「グリム童話と日本の昔話」を比較検討し、ほのぼのとした話になってしまったグリム童話の真相に突っ込みながら、日本の昔話との相違点について話をしました。3 講義目「世界遺産と音楽でめぐるドイツの歴史」は梶谷雄二先生による講義で、ドイツだけではなく、オーストリアにもスイスにも母国語のドイツ語話者がいるという現実には音楽や芸術のレンズをとおし、ドイツ語圏の多様性を紹介しました。

本年度の異文化体験講演会の講演者は外国語学科の教授ラメイ・アレック先生でした。今回脚光を浴びる「異文化」はフィリピンの多様多様な国民像。1月24日5限目416Rで「Bukas-loob: フィリピン人のおもてなしと心に惚れた私」をタイトルに、90分間の講演会が行われました。宣教師の経験を振り返りながら、辺鄙な島々で暮らしているマンヤン族の暮らしぶり、彼らとの触れ合いの不思議と感動について熱心に語ってくれました。